

令和 6 年度 高知県高次脳機能障害支援拠点センター青い空 事業報告

○ 高次脳機能障害支援拠点センターの役割（平成 20 年に設置）

高次脳機能障害者に対する支援体制の確立を図ることを目的に以下の事業を実施

- ① 高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援
- ② 高次脳機能障害の正しい理解を促進するための普及・啓発事業
- ③ 高次脳機能障害者の支援手法等に関する研修等の実施（人材養成）

※国の定める高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業実施要綱より

○ 高次脳機能障害支援拠点センターの概要

① 利用時間

8時30分から17時まで

※ただし、土日祝祭日及び年末年始（12月29日から1月3日）を除く

② 場所

高知県高知市廿代町2-22（近森リハビリテーション病院内）

高次脳機能障害支援拠点センター 青い空

③ 相談方法

電話、メール、FAX、来訪による面談

職 種	職員数
作業療法士	1名
理学療法士	2名
公認心理士	1名

○ 事業実績

※令和 6 年度については、令和 7 年 2 月末時点の実績

① 相談支援事業

（1）相談件数

年度	初回	継続	合計
R6年度	79	462	541
R5年度	82	600	682
R4年度	100	532	632

(2) 相談方法

年度	電話	メール	訪問	来所	担当者会	合計
R6年度	338	25	65	100	13	541
(うち初回)	52	4	9	11	3	79
R5年度	469	29	51	105	28	682
(うち初回)	67	0	7	6	2	82
R4年度	419	14	40	133	26	632
(うち初回)	75	4	5	12	4	100

(3) 初回相談者分類

年度	当事者	家族	支援者	合計
R6年度	16	28	35	79
R5年度	9	11	62	82
R4年度	22	20	58	100

初回相談の主な内容について

当事者から

- ・ 障害福祉サービスを利用したい
- ・ 就労したい

家族から

- ・ 評価・診断、社会制度利用の希望
- ・ 障害福祉サービスを利用したい
- ・ 高次脳機能障害の症状について知りたい
- ・ 当事者への対応について知りたい

支援者から

- ・ 評価・診断
- ・ 当事者への対応について知りたい
- ・ 障害福祉サービスを利用したい
- ・ 就労支援の希望
- ・ 県内外の移動者に関する連携

(4) 対象者年齢別

年度	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明	合計
R6年度	2	1	59	42	93	232	43	32	17	1	19	541
(うち初回)	1	1	1	3	20	22	9	8	4	1	9	79
R5年度	0	0	25	181	150	219	60	25	2	0	20	682
(うち初回)	0	0	4	5	19	15	18	10	1	0	10	82
R4年度	0	1	38	188	140	189	52	7	9	0	8	632
(うち初回)	0	1	2	14	25	34	11	4	4	0	5	100

(5) 相談内容分類別

年度	医療	福祉サービス・社会資源	就労・教育	生活課題への対応	家族支援	心理的支援	その他	合計
R6年度	125	91	55	121	37	76	36	541
(うち初回)	18	12	12	13	14	4	6	79
R5年度	78	73	69	168	94	125	75	682
(うち初回)	16	6	8	22	10	1	19	82
R4年度	53	29	51	189	27	141	142	632
(うち初回)	11	10	7	38	7	5	22	100

(6) 相談者分類別相談内容

R6年度	医療	福祉サービス・社会資源	就労・教育	生活課題への対応	家族支援	心理的支援	その他	合計
当事者	48	24	24	75	1	71	22	265
家族	26	13	9	17	27	2	0	94
支援者	51	54	22	29	9	3	14	182
合計	125	91	55	121	37	76	36	541

(7) 対象者の年齢別相談内容

R6年度	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明
医療	0	0	18	3	17	45	23	9	6	0	4
福祉サービス・ 社会資源	0	0	3	5	16	48	1	7	8	1	2
就労・教育	1	0	12	6	9	20	6	0	0	0	1
生活課題への対応	1	0	1	10	16	81	4	3	3	0	2
家族支援	0	0	1	0	9	8	6	13	0	0	0
心理的支援	0	1	19	14	18	22	1	0	0	0	1
その他	0	0	5	4	8	8	2	0	0	0	9
合計	2	1	59	42	93	232	43	32	17	1	19

(8) 相談者の圏域 (延べ)

年度	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	不明	県外
R6年度	6	163	276	36	31	8	9	12
(うち初回)	0	9	46	10	2	2	6	4
R5年度	19	134	428	41	25	7	24	4
(うち初回)	7	8	51	5	0	3	5	3
R4年度	0	93	402	31	67	23	8	8
(うち初回)	0	11	53	13	8	4	7	4

②普及啓発事業

(1) 支援拠点センター及び高次脳機能障害についての広報

- ・リーフレット、チラシの配布

各種研修会（リハ講習会、高次脳機能障害者支援研修会）での配布

安芸圏域「ここから東部ネットワーク会議」にてチラシの配布

幡多圏域「精神障害者アウトリーチ推進事業」の会議にてリーフレット配布、情報提供

(2) 家族教室

女子会での声掛けや、リハ講習会でのチラシ配布を行ったが、希望者は1名であった。

家族教室は1回開催し、高次脳機能障害全般についてと当事者の特性に沿った内容で行った。

その後は女子会でのつながりがあるため随時フォローアップ。

③研修事業

(1) 高知県高次脳機能障害支援養成研修

開催日時：令和6年8月19・20日（基礎研修 オンライン開催）

令和6年8月26・27日（実践研修 対面開催）

内容：令和6年度から厚労省の定める「高次脳機能障害支援養成研修実施要綱」に基づき高次脳機能障害支援養成研修を実施。

参加者：15名（相談支援、就労移行支援、就労継続支援B型、自立訓練、共同生活援助）

(2) 高知県高次脳機能障害者支援研修会

開催日時：令和7年2月27日

内容：高知障害者職業センター所長の井上量氏に依頼し、高次脳機能障害者の職場復帰支援について講演・グループワークを実施。

参加者：38名（医療機関、就労系障害福祉サービス事業所、相談支援事業所の職員の参加が多数。雇用主側の一般企業や労働局の職員の参加もあった。）

④県内の支援体制整備について

○幡多圏域

幡多福祉保健所に協力を依頼し、幡多圏域の精神障害者アウトリーチ推進事業のネットワークに対して、本事業と高次脳機能障害について紹介を行った。

前年の安芸圏域と同様に福祉保健所への相談は殆ど無く、ニーズの把握が困難。一方、地域の支援者は当事者を把握している傾向があった。

○高知市社協・南部・包括・障害意見交換会

2か月に1度の頻度で開催。

主な参加機関：高知市社協潮江地区地域福祉コーディネーター、高知市障害者相談センター南部、潮江地域包括支援センター、地域活動支援センター広場そよかぜ、高次脳機能障害支援拠点センター青い空

高知市潮江地区の社会資源についての情報共有や意見交換、事例検討、各機関の活動や取り組みの紹介などを実施。

○障害者等一般病棟の活用

高知市長浜にある愛宕病院分院の協力を得て、回復期リハ病棟でリハビリが円滑に行えなかった者を対象に、障害者等一般病棟への入院・リハビリテーションが受けられる体制整備を行った。

令和 5 年度高次脳機能障害支援委員会での意見について

○県内の支援体制整備について

以前より、高次脳機能障害支援委員会では、高知県の高次脳機能障害の支援体制整備について、県の中央部で構築したネットワークをモデルに東部、西部でも同様の整備をしていくことが議論されてきた。

県内の保健医療圏の高次脳機能障害者数の推計

※ () 内は 15～64 歳までの高次脳機能障害者数

安芸保健医療圏 92.7～154.3 名 (42.0～70.0 名)

中央保健医療圏 1160.4～1930.7 名 (641.9～1068.0 名)

高幡保険医療圏 107.5～178.9 名 (48.9～81.3 名)

幡多保健医療圏 172.6～287.2 名 (81.2～135.1 名)

東西の地域において高次脳機能障害者の支援に特化した事業を実施することは、事業者にとってメリットが少なく、自発的にネットワークが広がることは考えにくい。

「高次脳機能障害及びその関連障害に対する地域支援ネットワーク構築促進事業」を活用するなどして、支援ネットワークを構築、継続する仕組みや手段の検討をしてはどうか。

○家族会の男性家族の集いについて

友の会、女子会で男性支援者の集いの場の必要性を確認した。

青い空の当事者家族会女子会では、既婚の女性当事者の場合、その配偶者に参加を呼びかけている。実際参加されている方は 3 家族となっている。

今後も男性家族の集いについてのニーズには聞き取りをしていく。

○高知ハビリテーリングセンターとの連携

高次脳機能障害者の自立訓練、施設入所支援、就労系サービス、共同生活援助等により高次脳機能障害者の支援に協力いただいている。

本事業の養成研修や高次脳機能障害者支援研修会にも複数名に参加いただいた。

事業所として県に研修依頼があり、事業所研修を行った。(7/22 実施)。

⑥その他

○就労選択支援への対応について

就労選択支援は令和7年10月1日より開始される新たな就労系障害福祉サービスである。

令和6年度報酬改定の概要において、以下に該当する者は、原則として就労選択支援を利用することとしている。

対象者

- ・令和7年10月以降、新たに就労継続支援B型を利用する意向のある者
- ・令和9年4月以降、新たに就労継続支援A型を利用する意向がある者及び就労移行支援における標準利用期間を超えて利用する意向のある者

例外事由

- ・近隣に就労選択支援事業所がない場合
- ・利用可能な就労選択支援事業所数が少なく、就労選択支援を受けるまでに待機期間が生じる場合

高次脳機能障害者における懸念点

- ・就労系の障害福祉サービスを利用しない場合には就労選択支援は利用されないため、就労準備が出来ていない状況での無理な復職の防止にはならない。
- ・高次脳機能障害者が就労系サービスを希望した場合に、就労選択支援の事前の利用が原則となるため、希望した就労系サービス利用までの期間が延長される。休職中のサービス利用等においてはタイムロスにつながる。

就労選択支援が高次脳機能障害者へ与える影響と効果を見守る必要と、就労選択支援事業所への高次脳機能障害の特性や必要な配慮を説明する必要性がある。

高知県の保健医療圏別の高次脳機能障害者数と年間発症数の推計

人口は高知県庁HPの高知県推計人口データから抜粋（R7.2.1現在）

保険医療圏は高知県の定める保健医療計画に基づく分類

高次脳機能障害者の

総数は30～50万人/127770000（人口に対して0.235～0.391%）（渡邊2009）

発生数は20～30人/10万人（人口に対して0.02～0.03%）（蜂須賀2011）

により推計

安芸保健医療圏	（ 室戸市 安芸市 東洋町 奈半利町 田野町 安田町 北川村 馬路村 芸西村 ）		
総人口	： 39462		
（15～64歳人口）	： 17891		
高次脳機能障害者数			
総人口	： 92.7	～	154.3
（15～64歳人口）	： 42.0	～	70.0
高次脳機能障害発症数			
総人口	： 7.9	～	11.8
（15～64歳人口）	： 3.6	～	5.4
中央保健医療圏	（ 高知市 南国市 土佐市 香南市 香美市 本山町 大豊町 土佐町 大川村 いの町 仁淀川町 佐川町 越知町 日高村 ）		
総人口	： 493793		
（15～64歳人口）	： 273158		
高次脳機能障害者数			
総人口	： 1160.4	～	1930.7
（15～64歳人口）	： 641.9	～	1068.0
高次脳機能障害発症数			
総人口	： 98.8	～	148.1
（15～64歳人口）	： 54.6	～	81.9
高幡保健医療圏	（ 須崎市 中土佐町 禰原町 津野町 四万十町 ）		
総人口	： 45757		
（15～64歳人口）	： 20801		
高次脳機能障害者数			
総人口	： 107.5	～	178.9
（15～64歳人口）	： 48.9	～	81.3
高次脳機能障害発症数			
総人口	： 9.2	～	13.7
（15～64歳人口）	： 4.2	～	6.2
幡多保健医療圏	（ 宿毛市 土佐清水市 四万十市 大月町 三原村 黒潮町 ）		
総人口	： 73447		
（15～64歳人口）	： 34547		
高次脳機能障害者数			
総人口	： 172.6	～	287.2
（15～64歳人口）	： 81.2	～	135.1
高次脳機能障害発症数			
総人口	： 14.7	～	22.0
（15～64歳人口）	： 6.9	～	10.4